

高校生が「ICカード」について考える

多くの人の生活の足となっている公共交通機関ですが、昔は人が改札に立って切符を切っていました。それが自動改札になっただけでなく、ICカードになってもっとスムーズに、便利になりました。ICカードはそれだけでなく、福祉や環境面でもプラス効果があります。それらを踏まえて、今回は高校生が“交通系ICカード”について考えます。

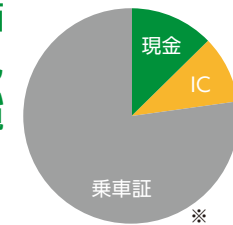
ICカードの利用者を独自調査！

調査したのは
上田くん



平日昼間の市バス2便にて、現金利用者、ICカード利用者、乗車証利用者を数えてデータ化しました。

調査日は、2020年1月6日（月）と1月7日（火）の、両日とも洛西バスターミナル14・13発29系統四条烏丸行です。



上田くん私見

私は、バス利用者は半数以上がICカード利用率がより高いと予想を立てて調査していました。

なぜなら、バスを降りるときはともあわただしく、現金で支払うとなると相当時間のロスが生じてしまい、特に両替のために移動途中に席を立つのは、手間がかかる上、揺れている車内の移動は心配もあります。

なので、バスに乗る場合では特に現金よりICカード利用のほうが多いと考えていました。

さらに調べてみると、確かに現金利用の割合は少なかったですが、ICカードの利用率が高いわけでもなく、ダントツで多かったのは乗車証でした。

特に多いのが、敬老・福祉乗車証。これは券を運転手に見せるだけでバス乗り放題の優れもので、ICカード同様の利便性があるものと考えられます。（年配の方や体の不自由な方々限定ですが）

自分の調査では日中昼間での調査だったので特に年配の方々の利用が多く、4分の3が乗車証類という結果となっています。

地下鉄四条駅構内でICカードについてインタビュー！

インタビューしたのは
長倉さん



四条駅というところで京都在住の方だけでなく大阪や兵庫、奈良や滋賀から来ている方もいました。

その結果、男女問わず幅広い年代でICカードが活用されていることが分かりました。半数以上の

方が1枚のカードだけを使っているようでしたが、最大で5枚所持の方もいてびっくり！ IC O C A とPi T a p a 2枚持ちの方も多く、学生さん達は定期としても使っていました。また東日本のSu i c a を持つ方もいました。

どこで買ったICカードも日本中で使えるのは本当に便利だと思います。チャージする金額は0円（定期のみとして利用から、1万円超えまで！）といえほとんどの方は2千円前後とのこと。

またICカードにまつわるエピソードもいろいろ聞きましたが、残念だったのは失くした時に出てこないという方ばかりだったことです。

ここで私とICカードのエピソードをご紹介します。私がまだアメリカに住んでいた1年前、東京へ旅行で来て六本木ミッドタウンに母と行きました。そこで私は朝にチャージしたばかりのICカードを失くしたことに気づきました。トイレや立ち寄ったお店を探しても見つかるわけもなく、最後の望みで案内所へ行くと私のSu i c a が届けられていました！ 近くのお店で落としていたようで、それを見つけたお客さんが届けてくれました。日本はなんて親切で良い国なんだ！と母と大感動でした。

ICカードは私達の生活に必要不可欠なものになりつつあると感じる今回の結果でした。

まとめ

上田くん ICカードはとても便利なカードで、乗り降りをスムーズにしただけでなく、現金をたくさん持ち歩く必要もなくなったし、お年寄りにも優しく、メリットがたくさんあることがわかりました。しかし調べていく中で、まだICカードを導入できていない事業者や地域もあることも分かってきました。ICカードの利用範囲がますます広がり、全国の広大なネットワークが、シームレスにつながり、ICカードがもっと使いやすいカードになってほしいと私は願っています。

長倉さん ICカードはとても便利なのに、あまり深く考えたことはなくいつの間にか私の生活に普通にあります。今ではICカードのない生活は想像できません。それは同時に、もしICカードが停電とか何らかの理由で使えなくなった時にパニックになるだろうと思います。便利に慣れるだけでなく、セキュリティやこうした時のバックアップの部分をもっと考えるべきだと思っています。そしてこれからのICカードにどんな機能が増えるかも楽しみです。

和田さん 今回、利用者のうち地下鉄でICカードが半数以上を、市バスでは乗車証が4分の3以上を占めていることがわかりました。地下鉄でICカードを使っている方はよく見かけるので、納得がいきましたが、市バスでの結果は少し意外です。乗車証の利用者は、高齢者や障害のある方が多いため、市バスはそんな市民の方の生活の足としてうまく機能していると言えるのではないのでしょうか。また、ICカードは生活に欠かせない存在のように感じます。これからもより便利になっていくと思います。

編集したのは
和田さん



ICカードについて 京都市交通局 春木宗幸さんにメールでインタビュー！

Q1 ICカードはいつ頃から導入されるようになったのですか？

A1 地下鉄は平成19年から、バスでは平成26年からICカードサービスを導入しています。

Q2 京都市交通局がICカード利用を推進しているのはなぜですか？

A2 1枚のカードで様々な交通機関等を利用できるICカードは、お客様の利便性向上はもちろん、切符の購入や両替えの手間等がなくなるため、スムーズな乗降が可能となります。また、バスの乗降にかかる時間が短くなることは、バスの混雑緩和にもつながるため、お客様と事業者双方にメリットのあるものとなっていますので、今後もICカード利用を推進していきたいと考えています。

Q3 カード登場に伴う、高齢者や障害者の方々、海外からの旅行者の利用の変化などを教えてください。

A3 ICカードを利用している高齢者等の個別数字は把握していませんが、全体のIC利用率は増加しているの

で、多くの方に便利にご利用いただいていると考えています。また、障害をお持ちの方向けに、スルッとKANSAIが発行する特別割引用ICカードや、訪日外国人向けのICカード「KANSAI ONE PASS」など便利にご利用いただけるものも発売されています。

Q4 この先のICカードにどんな機能が必要だと思いますか？

A4 ICカードの利用率を向上させるため、ICカードを利用する方へのサービスを充実させる必要があると考えています。そこで各種割引乗車券の抜本的見直しを行い、ICカードによる乗継割引を中心とした割引制度への再構築を行うこととしています。その中で新たにICカードでのポイント還元制度の導入を予定しています。

Q5 ICカード導入における、トラブルや課題はありますか？

A5 特にトラブル等はありませんが、課題としてはICカードの利用率の向上があります。交通局ではバスで50%、地下鉄で80%を目標として掲げており、ICカードによるポイント還元制度導入や普及促進のためのPRやキャンペーン等により目標達成を目指していきます。

参考：

平成30年度ICカード利用率
市バス 31.9%（前年度比+8.1）
地下鉄 61.5%（前年度比+11.6）



アメリカのICカード事情

担当：長倉さん



アメリカでICカードは日本ほど使われていません。車社会のアメリカではあまり便利ではなく、クレジットカードが主流です。48種類のICカードがありますが、それらの多くはそれぞれ一つの公共交通機関でしか使えません。みなさんが登校や出社にバスや地下鉄を乗り継ぐときには複数のICカードを持つ必要があります。コンビニや本屋でICカードを使うことは出来ません。そしてアメリカの公共の乗り物は時間通りに来ることはほとんどなく、特に夜は場所によっては少し治安が悪く乗るのが怖いです（ごめんなさい）。そして成人したアメリカ人の88%は車を持っているので、ICカードは必要ではないのです。私が住んでいたサンフランシスコで使うClipper Cardはアメリカで一番良いと言われているICカードの一つで、22種類の公共交通機関で使えますがそれは北カリフォルニア内に限ります。そのため周りの人たちは不満を漏らしていました。

以上からアメリカでICカードはあまり人気ではなく、使う人が少ないのが現状です。

※これは私が住んでいたホノルルとサンフランシスコの話です。アメリカは広いのでもしかするともっとICカードが使われている場所があるかもしれません。